

7. 研修生のページ

1st turn ~ 第1コーナー ~

育成調教技術者養成研修 第22期生

(平成17年4月修了)

はじめに

私達は、軽種馬育成調教センターの育成調教技術者養成研修を昨年4月から受講し、今年4月15日に修了した第22期生18名です。

研修では教官の方々の熱心なご指導や充実した調教施設のお陰で足りない所はまだありますが、騎乗や厩舎作業等の技術は研修当初とは比べものにならないほど上達し、毎日充実した日々を過ごせたと思っております。

私達が生活していた「あかしあ寮」では、当初、団体生活に不慣れではありましたが、寮監・寮母さんをはじめいろいろな方にサポートして頂き充実した生活を送れました。

さて私達22期生は、今回このコーナーを執筆するにあたり、タイトルを「1st turn」と名付けました。私達はBTCに入講した時点で、これから競走馬について数多くのことを学ばなければなりません。馬の世界にゴールは無いと思いますが、将来、その見えないゴールに向かって育成調教技術者としての人生が素晴らしい道となるようにとの思いをこめているつもりです。

入講式を迎えて

平成15年12月に行われた選考試験を突破し、平成16年4月13日、晴れて入講の日を迎えました。式典においては、各関係者の方々から激励をいただき1人1人が夢と希望を抱き、これから始まる研修で育成調教技術者としての技術や知識を身に付けようと新たな気持ちで望みました。

実技について

実技では、騎乗訓練や厩舎作業等を行ないました。騎乗訓練では、主にBTCの調教施設を使用し、1日に2、3頭騎乗しました。また、寮でもホースシミュレーターを使い日々騎乗フォームのチェックを行うことができ、とても良い環境で研修を受けている事を実感しました。

乗馬経験者も未経験者も技術を高めようと必死に頑張り、すぐに皆変わらないほど上達していきました。

また、ちょっとした気の緩みが事故につながるのを、教官には日々厳しくご指導して頂きました。



騎乗訓練。まだごちなさの残る入講6週間目



馴致の実技風景



修了式に向けて、研修用走路にて縦列併走。

講義について

講義は馬に関するさまざまな知識、例えば栄養・飼料学、相馬学、馬の病気などを学ぶことができました。講師の方々にはスライドなどを使いわかりやすく教えていただきました。特に馬の解剖では本物の馬の脚の骨を使い、脚の構造やよく起こるケガの発症部位を手で触れて学ぶことができました。牧場で働くことは馬に乗ることだけでなく、私達には馬をケアすることも必要なことだと認識しました。今までの講義で教わった知識をしっかりと身に付け、生かしていきたいと思います。



実技の後の講義は眠気との闘いながら頑張ることもありました。



トレッドミル(馬用ルームランナー)を使用したスポーツ医学の講義。日高育成牧場研究室にて。

牧場実習について

入講3ヶ月後の牧場実習では、7月の2週間、民間の育成牧場で実践的な実習を行いました。研修して間もない私達が2歳馬を調教することの難しさや楽しさを感じることができ、現場での仕事の楽しさも味わうことができたと思います。今後の研修中に自分達のやるべきことがわかってきた時期でもありました。

1月からは通常の研修と平行して、JRA日高育成牧場の育成馬騎乗実習が始まりました。この時期の2歳馬では落馬はするし、ハプニングだらけで、今までの研修では体験できないことがたくさんありました。実際に私たちが就職して騎乗する馬はこのような若駒であるため、JRAスタッフの方にもご指導いただき、研修終了後には即戦力として馬産地に貢献できるホースマンになれるように努力しました。

課外研修について

課外研修ではいろいろな育成牧場や札幌競馬場の見学等に行きました。

多数の牧場を見ることでその牧場の1日の仕事の流れ、馬への接し方、調教など牧場によって様々な思いや考えを持ってスタッフは働いている事を実感しました。でも強い馬を作るという事に関しては、どの牧場も皆同じだと思いました。脚元が弱い馬に対しては坂路調教を取り入れたり、調教後の手入れでは水冷やマイクロレーダー等のケアを行うところにプロとしての強い馬を作る責任みたいなものを感じました。牧場での作業には決して無駄な事がなく、一つ一つが馬のためという事も同時に教えられた気がします。見ただけでは理解できなかったことなどを質問すれば必ず答えが返ってきました。馬に携わっていくなかで大切な事を学ぶことができ、良い勉強になりました。

札幌競馬場見学では馬が競馬に出走するまでの流れを知るとともに、検量室・パドックなど普段立ち入ることができない所まで見学できました。検量室では競馬を終えた騎手のくやしがる姿があったり、次のレースに向けて急いで準備したりと自分たちが知らない所での騎手たちの仕事ぶりを見ることができました。レース前のパドックでは馬主さん、調教師、騎手たちがレースや勝つための作戦を話しており、見ていて自分達は今からすごい世界に入って働いて行く事を知りました。この課外研修において多くの人達の馬に対する思いがあることを知り、勉強させられる事が多かったと思います。自分たちの夢に向けての志気が高まるとともに、すごい楽しみになりました。

でも競馬の世界に関しては、一人の力では成り立つ事が出来ず、沢山の人の助けがあって馬は競馬という素晴らしいスポーツができる事を実感し、少しでもその馬の力になれるように頑張る思いが強くなりました。



札幌競馬場パトロールビデオ室にて研修



浦河競馬祭。日頃から世話をしている日高育成牧場の研究馬が出走し、研修生は輸送からレース後の馬体ケアまで担当しました。実践的教材です。

BTC の業務研修について

BTC の業務研修は、普段自分たちが使っている調教施設の管理や整備などを一日体験するものでした。初めて詰所に入った時から、職員の方々からジョークなどをまじえてアットホームな感じで迎えてくれました。作業をしている時も自分達に気を配ってくれ、色々な事を教えていただきすぐに頭に入っていました。

この研修を通して職員の方々からBTCの施設を使う人達の事をよく考えている事が分かり、これからも自分達は、より大切にこの施設を使っていきたいと思います。



餅つき。初めての体験者もいます。間違っても教官の手はつかないように！

おわりに

1年間という短い研修の中で培った育成調教技術者としての技術や知識はもちろんのこと人間性を向上させ、立派な社会人となり、時代を引っ張っていけるような育成調教技術者となれるよう、努力して行きたいと思いますので、各牧場関係者やBTC職員の方々には今後ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

氏名	年齢	就労先
浅利英明	19	社台ファーム
池田博人	19	二風谷共同育成センター
上村彰彦	19	日高大洋牧場
小野嘉治	20	日高大洋牧場
川口ひかる	21	ファンタスタクラブ
河之内祥人	19	ミルファーム
菅野彰文	21	イクタトレーニングファーム
北橋一志	19	宇治田原優駿ステーブル
工藤 桂	19	ビクトリーホースランチ
佐久間義洋	19	天栄ホースパーク
清水寿満	18	ミッドウェイファーム
鈴木大介	19	日進牧場
高岡健太郎	19	ブラストホースステーブル
高橋佑誠	20	武田ステーブル
中崎健介	21	イクタトレーニングファーム
平山竜太	19	山元トレーニングセンター
谷古宇裕一	20	日進牧場
山田慎也	21	社台ファーム



騎馬にて初詣。入講時より顔付が締まってきましたか？